

# バーコード(RSS)の作成

# KDbarcode\_rss



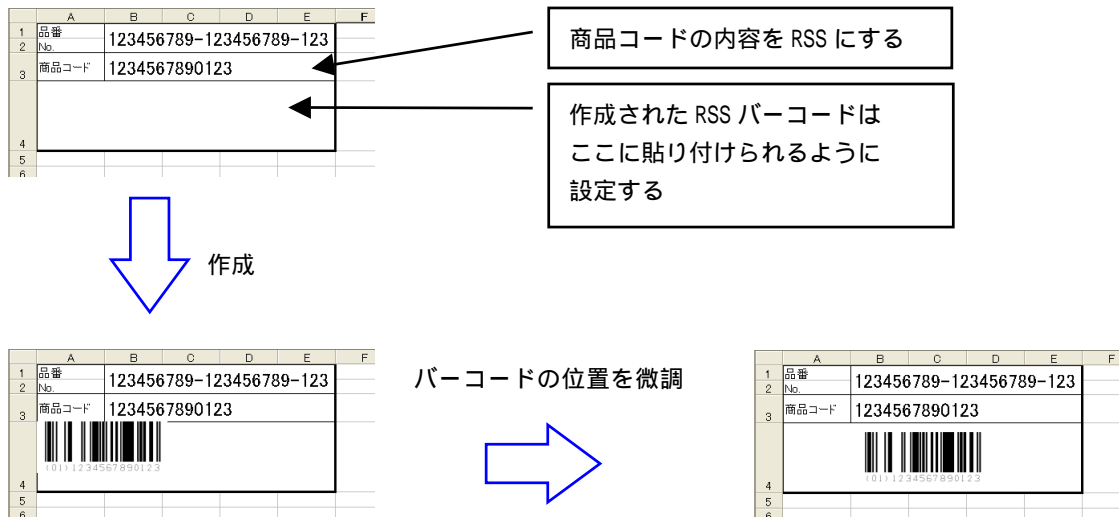
Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

## 処理概要

KDbarcode\_rss は Microsoft WORD/EXCEL のアドイン機能を使用してバーコード(一次元、二次元)をページまたはセルに貼り付けます。バーコードデータは Microsoft WORD/EXCEL の任意の位置に記述されている文字列か選択したセルに述されている文字列や設定ダイアログに記述されている文字列になります。

貼り付けられるバーコードはイメージデータとなっています。



バーコードはイメージで作成されていますので、作成されたバーコードをクリックして移動させることによって位置の微調整ができます。

## <出力可能なバーコードの種類>

名称 (1次元コード)	内容
RSS	RSS バーコード
• RSS_14_STANDARD	
• RSS_14_TRUNCATED	
• RSS_14_STACKED	
• RSS_14_STACKED_ODIRECT	
• RSS_LIMITED	
• RSS_Expanded	
• RSS_Expanded_Stacked	


## バーコード取得方法

### <カーソルのあるセルから取得する>

選択されているセルにある文字列をバーコードデータとして使用します。  
Ctrl キーを押しながらセルを選択することにより、複数のセルを選択することが可能です。  
複数選択された場合は、選択されたセルの順番でデータを連結したものをバーコードデータとして使用します。

	A	B	
1	品番	名称	
2	012345	ABC	
3	002563	DEF	
4	125356	GHI	
5	000100	JKL	
6	158963	MNO	
7			

バーコードの作成

	A	B	C
1	品番	名称	
2	012345	ABC	
3	002563	DEF	
4	125356	GHI	
5	000100	JKL	
6	158963	MNO	
7			
8			
9			
10	012345ABC		
11			

### <指定セルから取得する>

指定されたセルにある文字列をバーコードデータとして使用します。

#### <指定方法>

入力は列行の英数字で指定して下さい。

例：列「B」、行「22」を指定する場合は「B22」と入力して下さい。

#### <複数指定の場合>


複数のセルを指定したい場合はカンマ[,]で区切って指定してください。

複数指定した場合は、指定したセルの順番でデータを連結したものをバーコードデータとして使用します。

例：列「B」、行「10」と列「A」、行「21」を指定する場合は「B10,A21」と入力して下さい。

	A	B	
1	品番	名称	
2	012345	ABC	
3	002563	DEF	
4	125356	GHI	
5	000100	JKL	
6	158963	MNO	
7			
8			

バーコードの作成

	A	B	
1	品番	名称	
2	012345	ABC	
3	002563	DEF	
4	125356	GHI	
5	000100	JKL	
6	158963	MNO	
7			
8			
9			
10			
11	002563DEF		
12			

セル「A3」と「B3」を指定します。

### <テキストボックスから取得する>

バーコードデータを EXCEL のセルからではなく、テキストボックスから取得します。

	A	B	C
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			

バーコードの作成

	A	B	C
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			

## バーコードサンプル

- 出力可能なバーコードの種類は次の通りです。

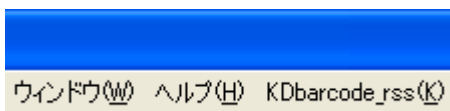
RSS ( Standard, Truncated, Stacked, Stacked Omnidirectional, Limited, Expanded, Expanded Stacked )



- バーコードデータは Microsoft WORD/EXCEL の任意の位置に記述されている文字列を指定します。
- EXCEL 用の場合は複数のセルからデータを集めて、そのデータをバーコードにすることが可能です。
- バーコードの幅、高さ、最も細かいバー幅を設定することでバーコードのサイズを調整することが可能です。
- バーコードの向き (0 度, 90 度, 180 度, 270 度) を指定することが可能です。
- バーコードの解像度を上げることによって精度を上げることが可能です。
- EXCEL 用の場合は複数のシートを一度にまとめて処理することが可能です。
- 貼り付けられたバーコードを別の場所に移動する場合に、再度バーコードを作成する必要がありません。  
貼り付けられたバーコードをマウスでクリックしたまま移動することが可能です。

## 基本画面

Microsoft WORD/EXCELにアドインとして設定するとメニューバーに「KBarcode\_rss(K)」というメニューが追加されます。



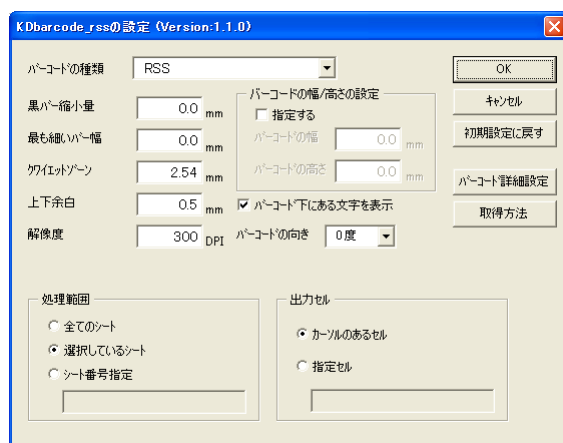
「KBarcode\_rss(K)」メニューをクリックすると次のようなメニュー内容が表示されます。  
「設定」をクリックすると以下のダイアログが表示されます。



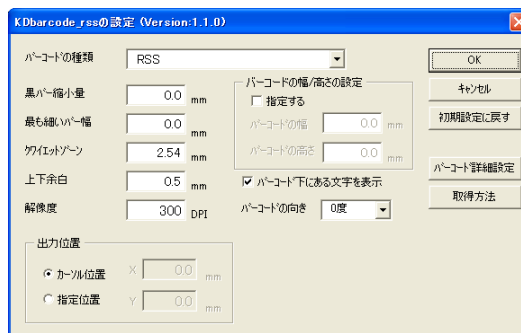
このダイアログではバーコード情報を設定します。設定する内容は、作成するバーコードの種類やサイズ、向き、データ、貼り付ける位置等になります。

設定が終了すれば「OK」ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。

「KBarcode\_rss(K)」メニューをクリックし、「作成」をクリックすると設定されたバーコード情報を元にバーコードを作成して指定された位置に貼り付けます。



< EXCEL 用 >



< WORD 用 >

## 設定内容

設定ダイアログで設定できる内容は以下の通りです。

### 1. バーコードの種類 (WORD/EXCEL 共通)

作成するバーコードを選択します。選択可能なバーコードは下記の通りです。

- RSS\_14\_STANDARD
- RSS\_14\_TRUNCATED
- RSS\_14\_STACKED
- RSS\_14\_STACKED\_ODURECT
- RSS\_LIMITED
- RSS\_Expanded
- RSS\_Expanded\_Stacked

### 2. バーコードの幅と高さ (WORD/EXCEL 共通)

バーコードの幅と高さを mm 単位で設定します。

バーコードの幅はクワイエットゾーン(両サイドの空白部分)が含まれます。

バーコードの幅を設定すると「最も細いバー幅」、「クワイエットゾーン」の設定は無視されます。

幅と高さの設定値が 0.0mm の場合は、選択されているバーコードの種類のデフォルト値で作成します。

### 3. 黒バー縮小量 (WORD/EXCEL 共通)

合成するバーコードの黒部分を本来の幅よりも細く、あるいは太くします。

出力装置によっては、黒バーの部分が本来の幅よりも太く、あるいは細く出力されてしまう場合があるので、それを補正するための調整値を設定します。

正の値を指定すれば細く、負の値を指定すれば太くなります。

### 4. 最も細いバー幅 (WORD/EXCEL 共通)

一次元バーコードの最も細いバーの幅または二次元バーコードの最小セル幅を入力します。

出力装置のピクセルサイズの倍数にすると、バーコードの認識率が高くなります。

「バーコードの幅と高さ」のバーコードの幅が設定されている場合は無効となります。

最も細いバー幅の設定値が 0.0mm の場合は、選択されているバーコードの種類のデフォルト値で作成します。

### 5. クワイエットゾーン (WORD/EXCEL 共通)

クワイエットゾーン(上下左右の余白部分)のサイズを指定します。

「バーコードの幅と高さ」のバーコードの幅が設定されている場合は無効となります。

設定値を 0.0 に設定した場合や「バーコードの幅と高さ」のバーコードの幅を設定している場合、

最小セル幅の 4 倍以下に設定した場合は設定値が無効となり、デフォルト値(内部で自動計算)になります。

### 6. 上下余白 (WORD/EXCEL 共通)

バーコードの上下余白サイズを指定します。

設定値を 0.0 に設定した場合はデフォルト値(0.5mm)が使用されます。

### 7. バーコード下にある文字 (WORD/EXCEL 共通)

バーコードの下にある文字を表示するかどうかを指定します。

文字サイズは指定できません。バーコードの幅に収まるように文字サイズを自動調整します。

### 8. バーコードの向き (WORD/EXCEL 共通)

バーコードの方向を指定します。

0 度、90 度、180 度、270 度のいずれかが選択できます。

## 9 . 解像度(WORD/EXCEL 共通)

作成されるバーコードの解像度を指定します。

黒バーと黒バーの間が狭い場合は成るべく解像度を上げて設定して下さい。解像度が低いと黒バーと黒バーの間が潰れてしまうことがあります。

推奨解像度は 400DPI 以上です。

## 10 . バーコードデータの取得方法(EXCEL 用)

バーコードデータとなる文字列の取得方法を設定します。

ここで指定した取得方法でバーコードデータが取得できない場合は処理を行いません。

取得方法は次の 3 種類があります。

### <カーソルのあるセルから取得>

現在選択されているセルにある文字列をバーコードデータとして使用します。

Ctrl キーを押しながらセルを選択することにより、複数のセルを選択することが可能です。

(Shift キーを押しながらやマウスの左クリックをしたままでの選択では不可)

複数選択された場合は、選択されたセルの順番でデータを連結したものをバーコードデータとして使用します。

### <指定セルから取得>

指定されたセルにある文字列をバーコードデータとして使用します。

この方法を選択した場合は下にあるテキストボックスが入力可能になるのでセルの番号を入力して下さい。

入力は列行の英数字で指定して下さい。

例：列「B」、行「22」を指定する場合は「B22」と入力して下さい。

複数のセルを指定したい場合はカンマ[,]で区切って指定してください。

例：列「B」、行「10」と列「A」、行「21」を指定する場合は「B10,A21」と入力して下さい。

複数指定した場合は、指定したセルの順番でデータを連結したものをバーコードデータとして使用します。

### <テキストボックスから取得>

バーコードデータを EXCEL のセルやテキストファイルからではなく、テキストボックスから取得します。

この方法を選択した場合は下のテキストボックスが入力可能になりますのでバーコードデータを入力して下さい。

## 11 . バーコードデータの取得方法(WORD 用)

バーコードデータとなる文字列の取得方法を設定します。

ここで指定した取得方法でバーコードデータが取得できない場合は処理を行いません。

取得方法は次の 2 種類があります。

### <カーソルのある行から取得>

現在カーソルがある行から最初に見つかった半角ダブルコーテーション["]で囲まれた文字列をバーコードデータとして使用します。

### <テキストボックスから取得>

バーコードデータを WORD 文書内の文字列やテキストファイルからではなく、テキストボックスから取得します。

この方法を選択した場合は下のテキストボックスが入力可能になりますのでバーコードデータを入力して下さい。

## 12 . 処理範囲(EXCEL 用)

バーコード処理を行うシートを設定します。

シート番号はシートタブの一番左側が 1 で右に向かって 2, 3, 4・・・と増えて行きます。

シート番号を複数指定する場合は「,」（コロン）で区切ってください。何ページから何ページまでという

指定を行いたい場合は「-」（ハイフン）で区切ってください。「,」（コロン）と「-」（ハイフン）は組み合わせて指定することが出来ます。

例：シート番号 1,3,5 と 7~12 を処理したい場合

1,3,5,7-12

## 13 . 出力セル(EXCEL 用)

作成されたバーコードイメージを貼り付けるセルを設定します。

バーコードのサイズに合わせて貼り付けられるセルのサイズが変更されることはありません。

指定されたセルの左上隅に作成されたバーコードの左上隅を合せてセルの上に貼り付けます。

#### 14. 出力位置(WORD 用)

作成されたバーコードイメージを挿入する位置を設定します。

「指定位置」を選択して X 方向、Y 方向の位置を入力する場合、座標原点は用紙の左上になります。  
入力値は mm 単位で小数第 2 位まで有効です。

### 設定内容 (RSS)

#### 15. RSS のセパレータの高さとデータキャラクタ数(WORD/EXCEL 共通)

RSS を構成するセパレータの高さとデータキャラクタ数を指定します。

- ・セパレータの高さ 範囲 0.0~10.0

範囲外の値を指定した場合は、上限下限何れかの値に置き換えられます。

- ・データキャラクタ数 範囲 2~22

1 行のデータキャラクタ数を指定することで、総データキャラクタ数に応じて、

バーコードの行数も変更されます。総データキャラクタ数は入力されたデータにより異なります。

値は、偶数値のみ有効になります。奇数値は、全て初期値に置き換えられます。

範囲外の値を指定した場合は、上限下限何れかの値に置き換えられます。

## 注意事項

### < 共通事項 >

- (1) バーコードの解像度が荒い場合、サイズが小さすぎると読み取れない場合があります。  
読み取れない場合は「KDbbarcode\_rss(K)」メニューの「設定」をクリックして「KDbbarcode\_rssの設定」ダイアログからバーコードの幅、高さ、最も細いバー幅、解像度を変更してサイズを調整してください。
- (2) 印刷時には印刷プリンタの解像度、色の濃度により読み取れない場合があります。
- (3) バーコードの種類によっては文字数が決められているものがあります。  
バーコードの文字数が多い場合は「ERROR: illegal data」か「ERROR: data over」が表示されます。



- (4) 選択しているバーコードの種類で使えない文字を指定した場合は「ERROR: illegal data」が表示されます。



### < EXCEL 用 >

- (1) 複数セルを選択する場合は、Ctrl キーを押した状態でひとつずつセルを選択して下さい。  
Shift キーを押しての複数選択やマウスの左ボタンをクリックした状態でマウスを移動しての複数選択には対応していません。
- (2) セルの書式設定で「セルを結合する」を設定して結合しているセルからデータを取得する場合は、「バーコードの取得方法」を「指定セルから取得」に設定してデータの取得を行ってください。  
「カーソルのあるセルから取得」は結合しているセルには対応していません。  
指定するセルアドレスは、結合しているセルの左上のセルアドレスを指定して下さい。  
例えば[A1], [A2]を結合している場合は[A1]を指定して下さい。[A2], [B2], [C2], [D2]を結合している場合は[A2]を指定して下さい。

### < WORD 用 >

- (1) バーコードデータとして取得する文字列は半角の["] (ダブルコーテーション) で囲まれている必要があります。  
例: "12345678"  
注: ツールメニューのオートコレクト設定で入力フォーマット、一括フォーマットタブで「'」を「'」に変更する」にチェックが入っていると自動的に全角の["]ダブルコーテーションになってしまいますのでチェックを外して下さい。
- (2) バーコードデータとして取得する文字列内に["] (ダブルコーテーション) を入れる場合は2つ連続で入力して下さい。  
例: "123456""ABC""789"
- (3) バーコードデータとして取得する文字列はカーソルのある文字からページの最後の文字に向かって、最初に見つかった["]で囲まれている文字列となります。

- (4) WORD を起動しようとしたがエラーになってWORD が起動しなくなった場合は、Windows がインストールされているドライブの [Documents and Settings¥ログイン名¥Application Data¥Microsoft¥Templates] にある「Normal.dot」ファイルを削除して下さい。  
例：Windows が[C]ドライブにインストールされていて「TEST」という名前でログインしている場合  
C:¥Documents and Settings¥TEST¥Application Data¥Microsoft¥Templates

## 対応 OS

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003
- Windows Vista
- Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2
- Windows 7

## 動作環境

Microsoft Office 対応バージョン ( 32 ビット版のみ)

- Office 2000
- Office XP
- Office 2003
- Office 2007
- Office 2010

## 標準価格

KDbarcode\_rss (バーコード作成)

ライセンス数	価格(税抜き)
1	3万円
5	10万円
10	20万円
20	30万円
30	40万円
50	50万円
100	80万円